



I-OWA マンスリー・セミナー 大人と子どものためのハッピー・マネー®教室より キャサリンとナンシーのお金のお話

講演：竹内 かおり氏、西岡 奈美氏
レポーター：赤堀 薫里

ファイナンシャル・プランナー（FP）はお金のお医者さん。みなさんは、風邪をひいた時や熱を出した時は、お医者さんへ行きます。お金は風邪をひきませんが、お金の悩み事を一緒に解決するのが、ファイナンシャル・プランナーです。これから、就職、結婚、マイホームを買うという方も多と思いますが、これらをライフイベントといいます。そのライフイベントの時に、お金の問題がってきます。その時、自分で解決できることが一番ですが、自分だけで解決できない時はお近くのFPに相談してください。

いま、日本で使われているお金は、硬貨6種類、紙幣4種類と併せて10種類あります。これらを貨幣、通貨といいます。このお金は、より良いものへと進化しています。

昔は、お互いが欲しいものを交換する物々交換をしていました。しかし、交換したい時、お互いが欲しいものを持っている人同士が出会うことは難しいでしょう。魚やお肉リング等、保存がきかないものは腐ってしまいます。そこで、とりあえずみんなが欲しいものと交換しよう！ということに気づいた人がいました。



皆が欲しくて腐らないもの、それがお金の始まりだと言われていています。昔お金の代わりにしていたものは、塩、貝、米、布など、皆が貴重で欲しくて保存できるものです。そこからより良いもの便利なものへと少しずつ進化をとげ、今のお金となりました。生きるために必要なモノとモノの交換をスムーズにするために生まれたのがお金です。

お金は人類の大発明だと言われていています。欲しいものを交換する便利な道具です。そのお金の役割は、3つあります。それらは「交換できる」「値うちをあらわす」「保存できる」です。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

① 交換できる

お金と欲しいモノと交換できるようになった

② 値うちをあらわす

モノの値うちをはかるのは難しい。人の感覚はそれぞれ異なります。その時に数字で価値を表すことでわかりやすくなります。

③ 保存できる

お金は腐りません。1,000 円預けたら 1,000 円のままで保存することができます。

1000 円札の材料費は 133 円だそうです。私たちはなぜ一枚の紙きれを 1,000 円札だと思っているのでしょうか。お金は信用で成り立っています。皆が 1,000 円札を 1,000 円だと信じているから 1,000 円です。

みんなが信用するために誰がお金を作るのか決まっています。もちろんコピーは法律違反になります。お札を発行できるのは日本銀行だけです。日本銀行が、13 円で作る 1,000 円札を 1,000 円の価値だと保証しています。



最近ビットコインという新しいお金が出てきています。今までは、中央銀行がお金を発行して信用を担ってきましたが、日銀以外の人や組織がお金を発行して、ブロックチェーンを信じてお金が出せるのではないかとされています。信じるということ、みんながどのように考えればいいのでしょうか。

経済産業省がホームページで、2020 年に開催される東京オリンピックやパラリンピックに向けてキャッシュレス決済を推進するといっています。国をあげて将来的には 80%のキャッシュレス化を目指していくと明記しています。キャッシュレス化が進むにつれて全くお金が見えなくなってきました。大人の方はお金の価値や大切さを子ども達にしっかり口で伝えていただけたら嬉しいです。

講演の最後に、「みなさんのお家にあるお金は、ATM にいくらでも入っているわけではありません。おうちの方が働いて、お客様から働いてくれてありがとうという気持ちでやってきたお金が、みんなのお家にやってきています。その「ありがとう」の気持ちでやってきたお金を「感謝」の気持ちで使ってください。お金はありがとうのシルシです」と結ばれました。クイズや寸劇を交えた講演はわかりやすく、子ども達の心をわしづかみにした楽しい時間となりました。